

小中学生に 1人1台のパソコンを

津市長 前葉 泰幸



現在、津市の小中学校のコンピュータ教室には40台を標準に児童生徒用のパソコンが配置され、各クラスが入れ替わりで使用しています。

入学当初はひらがなの読み書きを最優先で学習する小学1年生も、タッチペンを使うお絵かきソフトなどで端末に慣れるところから始めていき、中学年の国語の授業でローマ字入力を学習するとキーボードの操作も滑らかになってきます。高学年になると社会科見学や修学旅行前の調べ学習、卒業文集の制作などに情報機器を活用するスキルが身に付き、中学校でのより高度な取り組みへとステップアップしていきます。

昨年11月に訪問した美杉小学校では、2・3年生の体育の授業の際に児童たちがタブレットを使ってマット運動の技を撮影していました。グループに分かれて動画を再生し、気付いたところを話し合いながら改善へとつなげています。低学年の頃から端末を自在に操る姿はなんとも頼もしく、学校パソコン関連機器の年間リース料2億円を教育に投資していることの価値を目の当たりにした学校視察となりました。

その翌月、国は令和5年度までに児童生徒1人に1台の端末を配備する「GIGAスクール構想」を打ち出し、補正予算で有利な財政支援策が講じられることになりました。

この機を逃さず津市は各学校に大容量の高速通信ネットワークを整備するための予算6億円を今年3月に計上。その上で、1人1台の端末を初年度は小学5・6年生の児童と中学1年生の生徒から優先的に配備し、国が目標とする令和5年度までに順次、全ての学年に行き渡るように計画しました。

ところが、このタイミングで新型コロナウイルスの感染が一気に拡大し学校を取り巻く状況が一変します。小中高校が一齐に臨時休業となり休校が長期化したことからオンライン学習の必要性が広く認識され、一刻も早い1人1台端末の実現が強く要請されるようになりました。4月、国は全ての子どもたちの学びを保証するため、さらに予算を追加しGIGAスクール構想の前倒しを決定。令和2年度中に全学年の児童生徒に1人1台の端末を確保するために支援を加速させたのです。

津市の小中学生約2万人が一齐に1人1台の端

末を使い始めるために必要な費用は約11億円。それでもコロナ禍を契機としてICT(情報通信技術)環境の標準装備が学校のあるべき姿だと見なされるようになったからには、この巨額の投資を躊躇する理由はありません。補助金で不足する分は財政調整基金から充当する措置を講じて市の6月補正予算に盛り込むことにしました。

8月1日、津市の小中学校がわずか2週間の短い夏休みに入るや否や、前日まで子どもたちの元気な声が響いていた教室では、校内通信ネットワーク設備と1人に1台配備される端末を保管し充電する電源キャビネットを設置する工事が一齐に始まります。全ての学校に校内無線LANが整備される来春には充電の済んだ自分の端末を棚からさっと取り出し学習を始める子どもたちの姿が見られるようになることでしょう。

情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力の一つと位置付ける新学習指導要領の実施を踏まえ、改訂版の教科書にはQRコードが掲載されています。自分の端末でその情報を読み取り理解を深める主体的な学びも、文書作成ソフトの共同編集機能を利用して一人一人の考えを全体で共有しながら作業する協働学習も、専門家の遠隔授業を受けたり他校とオンラインで連携したりする双方向型の取り組みも可能にする1人1台の端末利用は学習活動の幅を大きく広げます。

自分の端末を持ち帰り、三重大学教育学部と連携して開設した「津市e-Learningポータル」という学習支援サイトを活用して、子どもたちがそれぞれの居場所で自分のペースで学習を進めることもできるようになります。各自の学習履歴は自動的に記録され、一人一人の習熟度に応じた教員のきめ細かいフォローを可能にします。

来年度以降、再び休校措置が取られる事態が発生した場合はオンラインで授業を行います。担任が児童生徒の自宅ポストにプリントを届け、インターフォン越しに声だけでつながっていた長期休校時のもどかしさも不安も、今後はオンライン上での課題配布と提出、顔の見える双方向のやりとりが加わることで、担任と児童生徒、学校と家庭との対話の場が常に確保されている安心感へと置き換わっていくことでしょう。

ICT環境は学びの手段を豊かにします。子どもたちが自ら情報を活用して深い学びへと分け入り、分析と改善を重ねて課題の解決にたどり着く力を育もうと、教員たちの準備も次第に熱を帯びてきました。年度末までに全ての学校の情報通信設備が整うよう、しっかりと取り組んでまいります。

テレビ版市長コラムでは、前葉市長がこのテーマについて語ります



津市長コラム

検索



✓ 養正小学校、西橋内中学校訪問…6月4日

5月17日から半日の分散登校方式で再開した小中学校は6月より平常授業を行っています。机を離して距離を確保し給食は全員が前を向いて食べるなど、感染防止に万全を期して学校の日常が戻りつつあります。

「市長活動日記」は津市ホームページでご覧になれます

津市長活動日記

検索

新型コロナウイルス感染症対応

第2弾・第3弾を展開！津市独自の支援策 PART2

津市では、10万円の特別定額給付金を全国トップクラスのスピードでお渡しするとともに、新型コロナウイルス感染症への独自支援策第1弾として13億円にのぼる事業を展開。さらに、第2弾で全ての児童生徒へタブレット端末の導入11億円、第3弾でプレミアム付商品券の発行20億円など、次々と支援策を打ち出しました。市民生活と地域経済が受けた大きな打撃を一気に払拭していくため、思い切った対策を展開します。

津市独自の支援策 令和2年度 5号補正		令和2年度 4号補正		令和2年度 3号補正		令和2年度 2号補正		他の予算	
337億881万円 新型コロナウイルス感染症対策 津市の事業費の合計（一般会計）		10億9,525万円 1億8,118万円 5,500万円 800万円		4億4,879万円 2億5,000万円 2億3,089万円 3億7,488万円		279億6,500万円 3億3,480万円 3億7,500万円		6,122万円	
プレミアム付商品券を28万冊発行 夏休みの授業でエアコンを稼働、臨時スクールバスを8台運行 ふれあい・いきいきサロンや放課後子供教室のスタートアップ支援など ひとり親世帯への臨時特別給付金、準要保護世帯への就学援助の追加		小・中・義務教育学校に1人1台の端末を導入 子どもたちの施設への感染防止対策、住居確保のための給付金支援など 地域医療の体制整備への支援、避難所の感染防止対策など 「津がんばるマルシェ」の実施		給食費6・7・9月分を無償化、未就学児などに給食費3カ月分相当額の支援金 売り上げが減少している事業者に津市事業継続支援金を交付 水道料金の基本料金の6・7月検針分を無料 今後の支援策のため新型コロナウイルス感染症対策事業基金を積み立て		特別定額給付金(全国民に1人10万円を支給) 子育て世帯への臨時特別給付金(児童手当に1万円を上乗せ) 新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金		放課後児童クラブへの支援、消毒薬の購入、アクリリル製問仕切り設置など	
詳細はP5・P14をCHECK!		詳細はP3・P4をCHECK!		詳細は広報津7月1日・16日合併号をCHECK!					

新型コロナウイルス感染症対応 津市の足跡Ⅱ

令和2年6月1日
水通料金の基本料金の
6月検針分から無料に

令和2年6月1日
学校給食の
無償化スタート

令和2年6月1日
介護予防事業が
順次スタート

7月～
津がんばるマルシェ
スタート

7月21日
夏休み中の
授業が順次スタート

待ちに待った
友だちとの給食

3密対策を取りながら
給食と一緒に♪

連日大混雑＆
売り切れ続出！

☆

☆

☆



全ての児童生徒に端末を整備！ GIGAスクール構想を前倒しで実現

- 小・中・義務教育学校の児童生徒に、1人1台の端末を確保
- 校内に高速ネットワーク環境（無線 LAN）を整備

学校の臨時休業等の緊急時においても、ICT（情報通信技術）を活用することで子どもたちの学びを保障できる環境を実現するため、全児童生徒分のタブレット端末2万458台と、指導者用の端末769台を導入。令和5年度のまでに全児童生徒に1人1台の端末を配備するという国の「GIGAスクール構想」を3年前倒しします。さらに、普通教室、一部の特別教室、体育館に高速ネットワーク環境を整備します。

ICTで学びの手段を豊かに ～千里ヶ丘小学校3年生の児童が紹介～

こんな風に活用します

教科書のQRコードを読み取り学習サイトにアクセス！

教科書に掲載されたQRコードから、ネット上のデジタル教材を動画などで見ることができず。

各自がタブレットで制作した文章や作品などを、共同編集機能を使って1つのスクリーン上で共有したり、クラスメイトと共同作業ができます。

他校や海外とも交流できるよ

ウェブカメラを使った他校との遠隔授業や、海外の学校と国際交流を実現！

習熟度に合わせて先生がフォローしてくれるよ

履修や学習状況が容易に把握できるのや習熟度に合わせた指導が可能に。

津市e-Learningポータルで自分のペースで学習！

三重大学教育学部と津市が連携して開設した学習支援サイト「津市e-Learningポータル」で、どこにいても学習、復習ができます。

休校時でもオンラインで学習できるよ

万が一学校が臨時休業となった場合でも、オンライン学習で、学習を続けることができます。

最初には戸惑ったタブレットやタッチペンも今では上手に使えるよICTの授業って楽しい！

③ G I G A スクール構想の加速化に対応した教員研修の実施

国の G I G A スクール構想の達成年度が前倒しされたことを受け、本市では、今年度中にすべての小・中・義務教育学校に 21, 227 台の端末の整備を行い、来年度から本格運用を始める予定です。それに向けて、すべての教員が端末を効果的に活用できるよう、各学校への指導主事による訪問研修や集合研修、オンライン研修を行っていますが、本格運用まで時間が限られているなか、さらなる研修の場が必要です。

県においても、今年度の教員研修計画のなかで、国が当初予定していた令和5年度での構想達成を見据えて、教員の I C T リテラシー向上のためのプログラムも予定されていると思いますが、それが大幅に前倒しされた今、研修計画のあり方を再検討していただき、4月からの運用に間に合うよう、教員のための研修実施に向けて早急に取り組まれるよう要望します。



タブレット端末を活用した授業